

かさま社協だより

No.9



編集・発行 2009.8.31

社会福祉法人笠間市社会福祉協議会広報委員会 笠間市美原 3-2-11 TEL.0296-77-0730
E-mail info@kasama-syakyo.jp URL http://www.kasama-syakyo.jp/



岩間支所での
夏休み
わくわく
体験教室

◀ 墨を使っての
うちわ作り



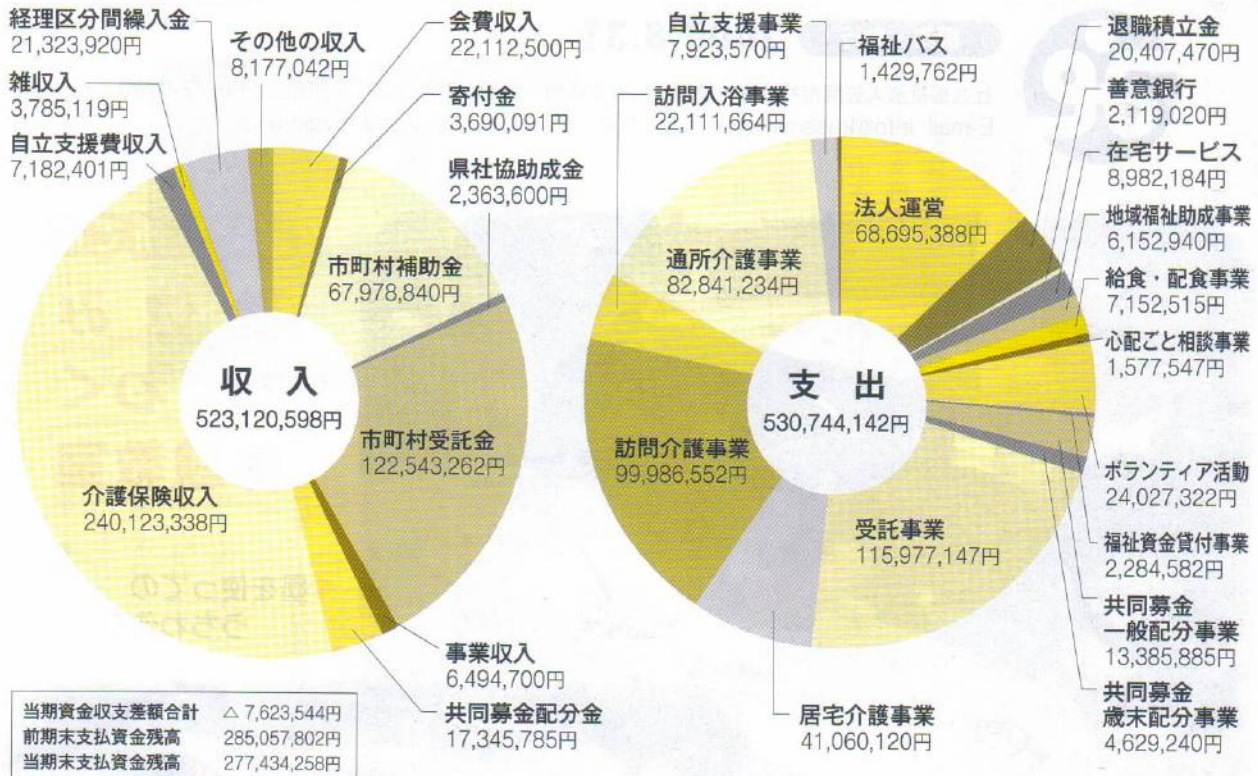
ピザ作りに挑戦▶

も く じ

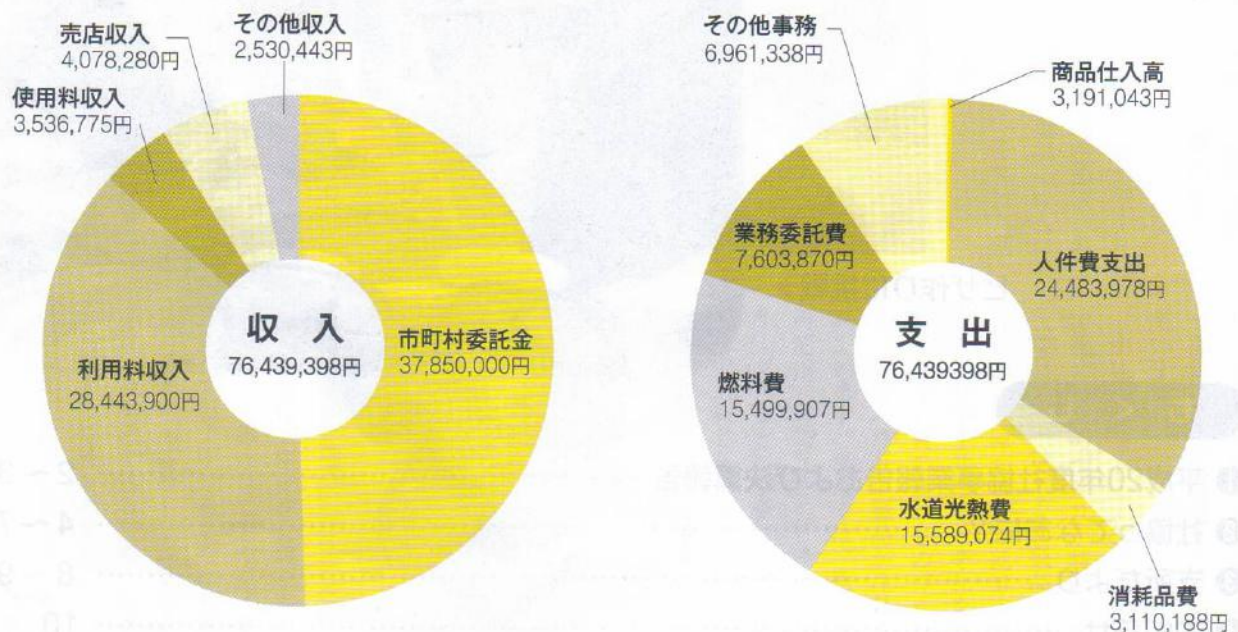
① 平成20年度社協事業報告および決算報告	2～3
② 社協ってなあに?	4～7
③ 支所だより	8～9
④ お知らせ	10

および決算報告

一般会計資金収支決算



いこいの家「はなさか」特別会計資金収支決算



法人運営事業

- 理事会、評議員会、監事会、正副会長会議等の開催
- 部会・委員会の開催
- 友部社会福祉会館の一部改修
- 岩間ボランティアセンターの開設
- 支部・地区社協づくり学習会の開催
- 地域福祉活動計画の各委員会の開催
- 第2回笠間市社会福祉大会の開催
- 会員会費、共同募金の募集
- かさま社協だよりの発行（6号・7号・8号）
- 各種団体への事業助成
- 低所得者福祉（小口貸付・生活福祉資金）
- 心配ごと相談所の運営（相談件数 230 件）
- 法律相談（相談件数 111 件）

ボランティアセンター事業

- 運営会議、代表者会議、委員会の開催
- ボランティア活動育成のための学習会の開催
- 児童・生徒の福祉講座の開催
高校生たちの福祉施設体験学習（ワークキャンプ 32 人参加）、夏休みわくわく体験教室（延べ 365 人参加）
- 市民対象の福祉講座の開催
（12 講座、延べ 895 人参加）
- ボランティアサークルの育成
77 サークル 1,371 人が活動
- ボランティアにおける在宅サービス等の活動

児童・生徒のボランティア活動普及事業の推進

- 福祉事業協力校への事業助成
（幼稚園、保育園保育所 19 か所・小中学校 21 校・高校 2 校）
- 先生方の福祉体験研修
- 学校依頼による福祉体験学習に指導・協力
（市内 10 校、1,077 人参加、ボランティア 168 人協力）

善意銀行運営

- 預託金 3,690,091 円 111 件
- 物品預託 171 件
- 福祉機器などの貸し出し
（車いす、福祉車両、点字版、着ぐるみ、輪投げ等）
468 件

笠間市委託事業

- 小規模福祉作業所「ニコニコハウス」の運営
訓練日数：週5日 訓練生：14 人
訓練科目：生活・作業・行事訓練等
- 地域ケアシステム推進事業
在宅ケアチーム数（428 チーム）
日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）
利用者 26 人
在宅介護者の会活動
- 親子通園事業
登録児数 30 人 開催回数 180 回
- 家族介護教室（3級ヘルパー養成講座）
受講生 18 人
- 在宅福祉サービス
協力会員 178 人
利用人数 延べ 1,220 人
利用回数 延べ 1,220 回
- いきいき交流活動通所事業
利用延べ人数 10,392 人 実施日数 631 日
主なサービス「健康チェック・入浴・趣味活動・体操・食事・レクリエーション活動等」
- 軽度援助事業
利用者数 延べ 1,119 人



笠間市指定管理業務

- 地域福祉センター「笠間市友部社会福祉会館」の管理・運営
利用者 27,621 人 1,047 団体
- いこいの家「はなさか」管理・運営
会館日数 295 日 入館者数 71,435 人
1日平均 242 人 送迎バス利用 4,788 人
- 福祉センターいわま
一般開放日（毎週木曜日）51 日、利用者 334 人
- 福祉作業所「たけのこ」運営
訓練日数：週5日 訓練生：33 人
訓練科目：生活・作業・行事訓練等
- 福祉作業所「おおぞら」の運営
訓練日数：週5日 訓練生：11 人
訓練科目：生活・作業・行事訓練等

介護保険事業

- 訪問介護サービス 2,515 人（年間）
- 訪問入浴サービス 432 人（年間）
- 通所介護サービス 1,285 人（年間）
- 居宅介護支援事業 4,066 人（年間）
- 自立支援居宅介護事業 310 人（年間）
- 在宅重度身体障害者訪問入浴 25 人（年間）

なあと？

No.3

「社協ってなあに？」のシリーズも、3回目を迎えることになりました。第1回目は、社協の目的と福祉についての考え方を掲載し、前号の第2回目からは、社協が取り組んでいる様々な事業について紹介しております。本号では、ボランティア活動に関する相談・支援・登録・情報収集及び提供などを行うと共に講座などを開催し、福祉活動への理解と参加を推進しているボランティアセンターについて紹介いたします。

ボランティアセンター

相談・登録

相談
登録

広報・啓発

広報
啓発

調査研究

ニーズ調査
サークル調査

研修・養成

技術・目的別研修
各種ボランティア

連絡調整

ボランティアに関する調整

組織化・交流

ボランティアサークル
連絡協議会
内外サークルとの交流

活動支援

機材貸出・管理
ボランティア保険

目的

市における福祉ボランティア活動を推進するため、あらゆる機会を通じてボランティア活動に対する住民の関心を高め、住民のニーズを積極的に開拓するとともに、活動に当たって必要な援助を行うことにより、いつでも、どこでも、ボランティア活動に参加できる体制の整備に努め、地域における福祉コミュニティの形成を図ることを目的としています。

こんなこともやっているよ！

友部支所

楽しく活動できる手助けを

旧友部町社会福祉協議会に、ボランティアセンターが設置されたのは平成6年10月、活動を充実強化する目的で、茨城県社会福祉協議会から3年間の推進事業の指定を受け開設されました。

あれから15年、みんなが気軽に顔を出し話し合える場所として、また図書や備品の整備、広報紙の発行などボランティアが活動しやすい環境作りに努力しております。

センターができた頃は15だったサークルも、現在は39サークルになり、延べ7000人もの方々が活動しております。昨年岩間支所にもセンターが開設され、地元ボランティアの拠点ができた大変喜んでいきます。

これからも、よりボランティアがしやすくなるように手助けをしていきたいと思っています。

(伊藤)



友部ボランティアセンター



会食会での交通講話



岩間ボランティアセンターでの活動

“社協”って

岩間支所

「レクリエーションいわま」
楽しいをつくる

瀬谷 宗彦

「こんにちは、お元気ですか」
この言葉が始まります。

これから大きな声で歌って
笑って、少し体を動かして楽し
く過ごします。遊びと折り紙を
年に8回ずつ行っており、場所
は福祉センターいわまです。対
象は「いきいき」の利用者で
毎回45人前後で
す。



完成した作品

レクは10種の
レパートリーの
中から選んで行
います。中でも
新聞紙一枚を丸
めてテープでと
めた簡単なボー
ルを使つての遊び（始めは一
人で、次にペアで次に6人の
グループで行うボールの受け渡
し）から、ゲームの最後は全員
が一つの大きな輪になりボール
に番号をつけ、音楽に合わせて
ボールを手渡しで行い、音楽を
とめた時、持ったボールの番号
とあらかじめ用意した当たり番

号が一致した時景品がもらえま
す。景品は手作りの小物です。
皆さん大いに楽しんでおり大好
評です。

レクダンス（童謡・唱歌およ
び歌謡曲に簡単な振りをつけた
もの）はレクの途中にはさんで
みたり、最後に一曲必ず入れま
す。これで盛り上がりつつ終わ
ります。今年度前半は童謡「海」
を使つて、ロープ約60cmを両手
に持ち、最初は外回し、次に内
回し、そして右手に巻き、戻し
てこれを3回繰り返します。全
員で合唱しています。も

う一曲最後に「水戸黄門」
の主題歌です。まず舟こ
ぎの動きから、両手を交
差し下から上へ大きく開
き、次にゆっくり歩く動
きをし、そして片手を交
互に額にかざし遠くを見
透し、最後は印ろうを出
す動きをし終わります。皆主人
公の黄門になりきって楽しいま
す。これはCDかけます。各年
度毎に曲の内容は変えていきま
す。

また、折り紙は全員が完成さ
せて持つて帰ります。内容は季
節に合うものを考えます。今年
度前半は七夕かざりを折りまし

た。「みんなを楽しく、自分も
元気に」を目指して頑張ってい
きます。

笠間支所

配送ボランティア・スタッフ

笠間地区では、ひとり暮らし
で70歳以上の配食希望者に、毎
月2回、給食センターで作った
弁当を届けています。

給食センターで作られた弁当
は、センターが各地区の中継地
点となる場所に配送し、その後
地域のボランティアが希望者宅
へ届けています。

この度、いろいろな理由で給
食センターでは中継地点までの
配送ができなくなり、ボラン
ティアを募集したところ、3人
の配送ボランティアが活動して
くれることになりました。
一緒に活動してくれる仲間を
募っています。



「お元気ですか」

（皆塚・関）

ちょっぴりいい話

楽しく
ウォーキング

前号では、靴
の選び方・正し
いウォーキング
フォームについ
て紹介しました。
今回は、ウォー

キングを安全に長く続けるため
のポイントについて紹介します。
・ひざ痛や腰痛などのある人
は、医師に相談してからはい
めること。

・体がだるいなど体調が悪い時
は、無理をしないで休むこと。
・暑い時は極力避け、熱中症や
脱水症に注意すること。

・毎日決めた距離を歩こうと無
理をせず、一週間単位で考え
ること。

・服装は、動きやすく、気候や
気温に合わせて選ぶこと。

・歩く前後に、ストレッチや軽
い体操で体をほぐし、疲れを
残さないこと。

・景色の変化を楽しんだり、目
標を作ったりして、歩く楽し
みをみつけたり、歩くコース
をつくること。

（小野）



ボランティア交流会

54のサークルが集う

6月30日午前10時から午後3

時まで、笠間公民館2階会議室
において市ボランティア連絡協

議会主催による交流会が開か
れ、友部・岩間・笠間の3地

区から100人を超
えるボランティア

アが参加しまし
た。

松橋慶子連絡
協議会長の挨拶

の後、「ボラン
ティア連絡協議

会とは」と題し
て講演がありま

した。
続いて参加者

は5グループず
つ2会場に分か

れ、昼食・休憩
もそこそこに話

し合いに入りま
した。各グルー

プでは始めに氏
名と所属するボランティアサー

クルの活動内容について紹介し
合い、共通テーマである「ボラ

ンティア活動を楽しくそして発
展させるためには？」について

話し合いに入りました。
3地区からの参加のため、初

対面の方が多かったのではない



熱心に話し合うボランティアの方々

合いを進めていました。

グループ討議終了後の全体会
で、3グループの代表が内容の
概略を発表しました。

発表内容と報告書から一部を
紹介します。

◎ボランティア活動を楽しくそ
して発展させるために

・良いリーダーを選ぶ
・決定事項は全員に伝える

・お互いを認め合う
・ボランティアに資格はいらな

い。まず興味をもつこと
・若い人の加入を進める

・年齢に合った活動を
・楽しいことが一番大切

・代償を求める傾向があるので
ポイント制にするのも一案か

また、活動を維持し充実させ
るための課題は「会員の高齢化

と会員募集が思うように進まな
いこと」とのことでした。

高齢化・少子化が進行し、人々
をとりまく社会情勢が大きく変

化する中で、ボランティアは大
変大きな社会貢献をしています。

(生天目)



講演

ボランティア連絡協議会とは

藤原 忠弘 先生

ボランティア活動の推移

本県のボランティア活動は、

昭和40年代以降、社会情勢の変
化等により、隣近所で助け合う

という気運が薄れ、その事の大
切さを理解していただくため

に、はじめられた。53年県社協
にボランティアセンターが設置

され、普及に努めたがなかなか
浸透しなかった。しかし、60年

につくば市で科学万博が開か
れ、社協が身障者等の介助を担

当することになり、強力に取り
組んだ結果、大幅にボランティ

ア活動が進展した。現在、県内
には、12万3千人のボランティ

アがおりますが他県に比べて少
なく、今後の育成確保が課題で

ある。

●ボランティア活動について

ボランティアは、自らが判断
し活動することであり、利用者

との間に心が通い、喜びや感動
を共有し人間性を高め、豊かに

するといわれている。
ボランティア活動は、只働き

ティアにならないよう留意し
て欲しい。

●活動の反省と対策
ボランティア活動が終わったら

記憶が新しいうちに、グルー
プ内で活動の成果や問題点を反省

し、不足する部分や新たに取組
むべき課題を検討し次につなげ

ることが大切である。

●連絡協議会について
笠間市は既に組織されている

として、組織の範囲・事務局の
あり方に限定して話された。

●最後に
昨年2月に筑西市で起きた、

老々介護のいたましい事件にふ
れ、地域社会の助け合いの大切

さを提起して講演が閉じられ
た。

以上が講演の概要ですが、今
後、少子高齢化の進展に伴い、

ボランティアの役割は大きくな
るものと思います。ボランティ

アの輪が更に広まり明るい地域
づくりに貢献できればと考えま

す。
(小野)

平成21年度 ボランティア講座

男性にも、作って食べる楽しさを体験していただくとうと始まった男の料理教室は、今年も5回シリーズで行いました。

食生活改善推進協議会(食改)岩間支部の会員が、講師になり健康管理にも関心のある受講生と共に、楽しく進めることができました。

【岩間支所】 男の料理教室に参加して

藤枝 憲一



感謝・感激、みなさんにお礼を。

男の方は、ぜひ申込みを。会費2千円で自分達の作った料理を、5回昼食として味わえる。そのおいしいこと。その源は、社協事務方・食改支部長・会員・参加者の人格・生きざまが愛情としてこめられている。万全の



準備・考えたレシピ・会員の指導のもと、参加者のチームワークで料理が作られる。初心者でも、ベテランの参加者が教えてくれる。善意、奉仕、ボランティア、互助扶助(助けあい)そして、社会福祉協議会など政治の貧困は別として、「自分でも、何か出来る事が」と、デザートのスイカを食べながら考えた。講座はあと2回で次は寿司を作る。誰でも幸せな一生を寿(こと)きたものの。改めて、お礼を。

取材

【友部支所】 はじめての手話



講義する千代先生

「手話は聴覚に障がいのある方のコミュニケーション手段のひとつです。簡単な手話を覚えて日常会話をしたり、手話で歌をうたったりしてみよう」という募集で友部支所には9人の受講生が集まり、2回目の講座となる6月17日は、6人が参加していました。

この日は手話の歴史にもふれ、明治8年、京都の待賢小学校にろうあ児学級が開かれ、同11年には京都府立ろうあ院ができて、ろうあ生31人が勉強するため集まってきたそうです。聴覚障害者は同じ耳の聞こえない仲間を知り、お互いの気持ちを伝えるために使った身振りが手話に



納得できる楽しい教室

なったと思われます。はじめは物事の形や動きを表していたものが、だんだん抽象的・暗示的手話となり、仲間だけで使われていた手話も講習会やテレビなどを通じ、やがて全国へと広がっていったそうです。長い歳月がかかっていたのだと改めて手話の歴史を知りました。

次は「ドレミの歌」を手話でうたってみようということでした。

手話には指文字があり、一回目の講座で学んでいる皆さん達は、スムーズに指で表していました。ド、という表現は手のひらが自分の方に向くか、向かないかで意味がちがうということも知り、大変難しいものであ

ると実感しました。

受講生に「どうして手話を…」と習うきっかけをお聞きすると「講義をしてくださっている先生が、あるろうあ者の方と楽しそうに会話している姿を見て、私も先生のように話せたらいいなあと、また以前から興味もあったので、難しいけれど毎回落しみに通って来たいです」と笑顔で語ってくれました。

これからの講座予定

男の料理講座	H21 10/1, 10/15, 10/29, 11/12, 11/26(木) 午前9時30分～午後1時30分	友部支所
女性の食事学講座	H21 9/8, 9/15, 9/29, 10/13, 10/2(火) 午前9時30分～午後1時30分	岩間支所
傾聴ボランティア講座	H21 11/21, 11/28, 12/5(土) 午後1時～4時30分	友部支所
団塊の世代講座	10月頃を予定しています	友部支所

笠 友 部 支 所 Tel 0296-73-0084
間 部 支 所 Tel 0296-77-0730
友 部 支 所 Tel 0299-45-7889

だより

笠間市の各地域では、それぞれ地域性をいかして様々な活動が展開されています。

笠間支所では、「一人にも環境にもやさしい」てづくり、ものづくりを試んでいる団体を紹介。岩間支所では、平地区社協が誕生し、早速「ふれあいガーデン」などに花植えをした活動を載せ、友部支所では、中央支部と東支部との共催事業の一つである友部養護学校「夏まつり」を紹介いたします。

笠間支所

ひとにやさしいうつわ 開発研究会(KDS)

笠間焼の陶芸の作家が共同で、交流や意見交換の場となっている団体です。名前の通り、まさに「ひとにやさしいうつわ」を作ることを趣旨としています。

また、作家だけでなく、歯科医や飲食店、福祉施設なども参加しています。うつわは衣食住のうちの「食」に通じるもので、近年はユニバーサルデザインという、全ての人のために使いやすいかたちが注目されています。



ひとにやさしいうつわ

しかし、こちらはさらに一歩踏み込んだものづくりをしています。その趣旨は「ちよっとし

人にも環境にもやさしい笠間の新しい動き

た工夫で人との差異が目立たず使いやすいものを」という点です。福祉用具の中には壊れにくい素材で作っており、あからさまに障がい者が判別できるようなものも多くあります。

さらに、福祉用具カタログなどで自分が使う側を想像してみると、いかにも不格好なもので、自然と自分からこのうつわで食事をしたい！と思えるものが少ないと気づかれます。ですが、陶土が見た目より「軽く」出来ているなどの工夫があるので、食事をする姿が自然に見えます。

そのような様々な工夫を凝らしたものが作家さんによって沢山あり、不自由であっても自らうつわを手取ることで、食欲も増進し健康の維持につながります。

障害者就労継続支援事業者 「森田屋」

こちらは、障がいの者の就労と自立のための就労支援施設（旧授産施設）です。環境にも人にも優しいものづくりを掲げた活動をしています。



はぎれを利用して...

縫製工場から廃棄処分となるはぎれや古布・ボタンなどを使用することにより、徹底して素材から環境に配慮し、便利な使い勝手を持たせた特色のあるエコバッグや風呂敷などを仕立てる活動をしています。

また昨年の国民文化祭や水戸芸術館と共同で行われた「カフェ・イン・水戸」という展覧会において、街中でエコを手軽に知って考え、楽しめるものづくりワークショップ（笠間小学

校・茨城県社会福祉協議会などで開催）や古展を行ったりもしています。

主に衣食住の「衣」と「住」で捉えたものづくりが特徴です。「森田屋」は、その製品の製作において障がいの者の就労支援として仕事を共にし、それを感じさせない質の高いものづくりや、独特の作品・製品が注目されています。最近では、端布を再利用したコサージュ（デコサージュなど）がテレビ、新聞などでも報じられました。



端布を活用した作品

福祉とは、医療や介護などだけではなく様々な要素や見方が含まれています。あなたにも出来ることがあるかもしれません。心豊かな生活を送るため、色々な角度から福祉を考えることが必要なのではないでしょうか。

（入江）



熱心に説明に聞き入る福祉推進員

支所

岩間支所

平地区社協誕生!!

運営委員長 美留町 保

岩間地区では、上押辺地区に続き2番目の地区社協となりました。

発足までの取り組み

平成19年10月に、地区社協の説明会の通知がありましたので全区民に回覧で参加のよびかけをしました。

11月2日に、平公民館で開催した説明会で、地区社協の事業内容の説明を聞いた時に、平区として今までにやってきている事がほとんどでした。それと、財源として還元金が出るという事も初めて知りました。早速、地区の役員会で話し合いを持ち、立ち上げの準備を始めました。

平成21年1月2日の新年総会に諮り、発足に向け取り組んでいくことが決定しました。

4月12日の総会で、規約・組織・事業計画・予算などが承認され、福祉



花植えに精を出す福祉推進員（ふれあいガーデン平にて）

発足後の活動

推進員28人が選出されました。

5月30日、福祉勉強会を開催。

小池岩間支所長を講師に招いて「社会福祉協議会ってなに?」「地区社協ってなに?」という題目でお話ししていただきました。

6月7日「ふれあいガーデン平」と「平不動尊花壇」に花植事業を行いました。

今後は、事業計画に基づき活動していきたいと思っています。

友部支所

友部養護学校（小学部）

夏まつりに参加

毎年中央支部では、友部養護学校と地区交流及び共同学習推進事業の一貫として「夏まつり」に参加しています。友部地区社協東支部との共催事業の一つで、今年は、去る7月8日に、友部養護学校の体育館で行われました。

両支部からは12人ずつ参加し、決められた各学年の児童とペアを組んで「夏まつり」に参加しました。

9時35分に体育館に集まり、「始めの会」をしました。次に、



ねらいを定めて



まっすぐ転がれ

各学年が工夫して作ったみこし（山車）を順番にかつぎ体育館内を一周しました。次に中央ステージのまわりに輪を作り、「ドラえもん音頭」を全員で踊りました。みなさんは、とても楽しそうに踊っていました。

少し休憩した後、館内は「おまつり広場」となり、お店やゲームコーナーが準備されました。5・6年生は、出店の売り子になったり、買物をしたりするので、私たちも一緒に活動しました。（くじ・輪投げコーナーなど）

11時30分に終りの会をし、皆さんと記念写真をとり、閉会となりました。慣れない活動だったのですが、意義のある一日でした。（鶴田）

善意の寄附を「ありがとう!!!」(善意銀行預託)

平成21年4月1日～平成21年6月30日まで(順不同・敬称略)

物 品

岡本工業株	使用済切手
訪問介護ステーションふきのとう	使用済切手
田崎 敦生	使用済切手 50枚
稲見 きい	使用済切手
かさまグリーンハウス	使用済切手
佐野 翠子	使用済切手
財合気会茨城支部道場	使用済切手
下安居婦人防火クラブ	使用済切手、ブルタブ多数、ペットボトルキャップ多数
向井 清子	使用済切手 約160枚
グループホームあさがお	使用済切手 650枚
プティコバーンスキークラブ	使用済切手 200枚
清水 保洋	紙おむつ
飯村 照子	紙おむつ
矢須 ゆり子	紙おむつ、使用済切手
飯田 清一	ペットボトルキャップ
柴田 五郎	ペットボトルキャップ
藤枝 富美子	タオル、雑巾
中村 まつ	タオル
額田 義文	ブルタブ13kg
穴戸苑関係者 ご家族	ブルタブ、ペットボトルキャップ 多数
塩畑 孝子	醤油6本
中根 たか子	竹の子
南波 憲	下着
木下 幸四郎	使い捨て手袋他
友常 きみ子	車いす
ファミリーマート友部東平店	使用済みクオカード322枚、ペットボトルキャップ4kg
不二製油株関東工場	ヤーコン、コンテナ1箱、ペットボトルキャップ
美留町 文男	梅干多数
高齢者クラブ原宿会	雑巾100枚、はがき50枚
北川根支部	クレンザー13個
ありんこ	未使用切手217枚計14,355円分、未使用80円切手91枚、未使用はがき100枚

匿名	使用済切手
//	未使用葉書8枚、タオル15枚、 輪ゴム
//	未使用葉書15枚、書き損じ葉書5枚
//	紙おむつ
//	切干大根、干し椎茸多数
//	牛乳パックイス 2個
//	タオル・入れ歯

金 銭

久保田 智代宏	100,000円
コットンクラブはないちもんめ	50,199円
笠間市商工会女性部	40,194円
ニューサウンスオーケストラ	30,000円
北川根地区グラウンドゴルフ同好会	24,800円
笠間市体育協会 スポーツダンス部	10,000円
レストラン モン・ラバン	10,000円
県庁OB農林農地友部会	7,280円
笠間エスシー協同組合	2,520円
常井 鞠代	1,661円
1本杉の地藏尊	836円
NPO入れ歯リサイクル協会	7,936円
匿名(12件)	51,664円



訂正とおわび

平成20年度の会員会費報告の中で友部地区に記載もれがありました。お詫びを申し上げるとともに、掲載させていただきま

す。

○法人会員(一〇〇〇〇円)

・大田町1区 新SKB様

○特別会員(三〇〇〇円)

・緑町1区 初田謙治様

岩間地区で パソコン教室が開講

去る3月に岩間ライオンズクラブ様から善意銀行に指定・預託があり、その預託金でノートパソコンを購入し、岩間地区の皆様から要望があったパソコン教室を開講しました。

対象者はボランティア連絡協議会岩間支部の登録者です。受講者は、活動に活かせるようパソコンの研修に励んでいます。



注
指定預託は各福祉事業を指定してのご寄付です。

入れ歯のリサイクルの ご協力とお礼

不要になった入れ歯には、貴重な貴金属が含まれております。

笠間市社協では、NPO法人日本入れ歯協会と協力し、入れ歯回収ボックスを各支所に設置しておりますので、ぜひ入れ歯の寄付をお願いいたします。

その益金はユニセフを通して世界の子どものため、また社会福祉に役立てます。

なお、4月にボックス回収をし、合計七、九三六円の寄付がありました。

編集後記

「社協ってなあに？」の第3回はボランティアセンターを取上げました。ここは、いわば各ボランティアグループが活動を推進するための拠点と言えます。

新たにボランティア活動に参加を希望する方への相談も行っていますので、利用してはいかがでしょうか。

当センターが地域福祉に大きな役割を果たしていることを痛感しました。

(生天目)